

PTA等指導者人権教育研修会

【日時】

令和7年6月26日（木）

13:30～16:15

【会場】

グリーンヒルズ津山
リージョンセンター

「ヤングケアラーってなあに？」

～ヤングケアラー経験者からあなたへ～



ヤングケアラー啓発支援団体
K& 冠野 真弓 氏

9歳の時に母が、その後父や姉も病気になり、ケアや家事をするヤングケアラーとなる。子ども時代は「話さない」＝「家族を守ること」だと思っていた。なので、見つからないように「普通」を演じていた。周りの子と比べて自分だけ大人になったような感覚だった。

ケアをすることで人に合わせることや察することは得意になっていった。ヤングケアラーさんはかわいそうな子と思われない子が多い。

誰にも話すもんか時代から、大きな変革を迎えたのが大学時代。同じ看護を目指す仲間に初めて家族のことを話せた。その時感じたのは『傾聴ってマジ大事！』ということ。

話すことで味方や理解者ができるという思いに変わった。話せることが救いになることがある。だからこそ、子どもの話を聴いてくれる大人が必要。想像力・質問力・傾聴力でまだその子も気づいてない真の望みに一緒に気づいてほしい。

ヤングケアラーには強みがあるのだとヤングケアラー研究の第一人者が言っている。

「責任感がある」「生活の知恵がある」「同年代の子どもより優れた能力を持っている」等。困っている存在だけではない部分も見してほしい。今は自分の強み、ヘラヘラ力を生かしてラフィングケアラー（笑っているケアラー）として発信をしている。『未来は暗くて見えないのではなく、もしかしたら、あなたの未来はまぶしくって見えないのかもしれない』



参加者の感想

○私が見えていないだけ、想像力が足りなかっただけで、これまでの人生の中で、同じ様な状況の方々もいたかもしれないと思いました。自分が振り返っても誰かに本当の気持ちを伝えることは仲の良い友人にも難しかった記憶があります。傾聴力を高めていきたいです。

○分かりやすく、とても良い講演でした。特に心に残ったのは、支援者に知ってほしいこととして「人間関係を丁寧に構築する」というお話でした。人と人として関わる、本当の意味で相手の話を聴きたいと思いました。ヤングケアラーをなくそうとするのではなく、フラットに関わっていききたいと思いました。ヤングケアラーであっても、そうでなくても一人一人が話合ってよりよく生きていけたらいいなと思いました。ありがとうございました。

○他地域の役員の方々と協議できて、「なるほど」ということもあった。有意義な時間だった。